

令和２年度 自己評価表

鳥取県立米子西高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な地域を創造する人財の育成を図る。	今年度の 重点目標	1 主体的に取り組む態度・思考力・実践力の育成 2 他者を認め、人とつながる力の育成 3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成 4 働き方改革の推進
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (3)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的に取り組む 態度、思考力の育成	授業改革の推進	各教科ごとにアクティブ・ラーニング推進月間を設定し、研究授業、授業研究会を実施している。ICTの活用を推進する必要がある。生徒アンケートの結果では意欲的に学習に取り組んでいると答えた生徒は70%であった。	授業研究会の質的向上とICTの活用を推進し、授業スキルの向上を図り、主体的・意欲的に学びに取り組んでいると答える生徒が75%以上になる。	・主体的、対話的で深い学びの推進と授業研究会の充実を図り、授業でのタブレットや電子黒板を利用する教員の増加に繋げる。(R1：45%→R2：60%) ・授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業力の向上を図る。	・各教科のアクティブラーニング推進月間を中心に授業改善に取り組んだ。授業でタブレットや電子黒板を利用する教員は、80.9%となった。 ・2学期に実施した授業アンケートをもとに、授業改善への足掛かりとすることができた。	B	・令和4年度より生徒一人一台のノート型PC活用に向け、様々な場面でのICTの活用が求められるため、更なる研修、取り組みを実施する。
	みらいチャレンジ活動の 充実・発展	みらいチャレンジ活動も4年を経過した。自分の問題として課題を設定したり、フィールドワークを実施したりするグループも徐々に増えてきたが、まだ調べ学習に終わるものも多い。	地域の資源を活用した多様な教育活動をおして、主体的に活動できる力が身につく。	・ハイレベル講座を7月に開催し、「思考力・判断力・表現力」の強化を図る。 ・グループ学習やフィールドワーク等を積極的に導入し、課題解決学習の充実を図る。	・1・2年次生に実施したハイレベル講座により、より主体的にみらいチャレンジ活動に取り組む生徒が増えた。 ・事業所訪問や研究概要説明会を実施したことにより、より身近な課題として研究活動に真摯に取り組む姿勢が身についてきた。	A	・次年度も取組を継続的に実施し、充実発展させる。
	学習習慣の定着	家庭学習時間を実施しているが、各学年とも、絶対的な学習時間が不足している。	体系的・組織的な「学習記録」を導入し、学習習慣が定着する。	・「学習記録」を導入し、自らの振り返りを通して、主体的に学習する習慣が身につくように指導する。 ・教科面談シートを活用し、成績不振者への指導を行う。	・「学習記録」の導入と、担任団を中心とする粘り強い指導により、徐々に学習習慣が改善しつつある。家庭学習時間の増加に伴い、学力テストの結果も上昇傾向にある。	B	・コロナ禍により、学校の教育活動が制限を受ける中、家庭学習の重要性がこれまで以上に高まっており、学習習慣の定着に向けた地道な指導を継続して実施する。
	進路指導の充実	国公立大学現役合格者数が38名・難関私立大現役合格者13名であり、目標を大きく下回った。	国公立大学現役合格者50名 難関私立大学現役合格20名	・学年団と進路指導部との連携を密にし、面談等を通して生徒理解に努め、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行う。 ・生徒の能力を最大限に引き出せるよう、講習等の時期や内容について検討し、効果的に実施する。	・総合型選抜など幅広い入試に対応できるよう面談等を利用し指導を行った結果、3月22日現在国公立大学が51名、難関私立大学に22名が合格している。 ・共通テストの本校平均点は文系・理系とも前年を20点以上上回っており、成果をあげた。	A	・大学合格者数の数値目標を達成できたので、継続して取組を実施するとともに、総合型選抜学校推薦型選抜に対する取組をより強化する。
2 他者を認め、人と つながる力の育成	基本的生活習慣の確立	挨拶ができなかったり、遅刻をする生徒も一定数おり、指導が必要である。令和元年度の遅刻者数は、1学級あたり平均で延べ35回であった。自己肯定感の高まりを感じる生徒が50%程度である。	・年間の遅刻者数が、1学級あたり平均で延べ35回未満 ・自己肯定感の高まりを感じる生徒が65%となる。	・令和元年度末に導入した「遅刻届」を活用して指導する。 ・掃除を徹底し、奉仕の精神を培い、校内美化に努める。 ・SNSモラルについて指導し、情報リテラシーの育成を図る。 ・探究的な活動や生徒会行事、ボランティア活動等、様々な活動を通して、生徒に達成感・効力感を獲得させる。	・本年度より導入した遅刻届の効果もあり、年間の遅刻者数は1学級あたり平均17回(昨年度22回)であった。 ・挨拶する生徒は多いが、もっと自ら進んでできるように全校で取り組みたい。 ・清掃については概ね良好で、校内美化の意識も高い。 ・「メディア利用」に関するアンケート」を実施した。「保健便り」や「米西だより」に記事を掲載し、生徒や保護者への啓発活動を行った。	B	・hyper-Qアンケートから見えてきた生徒の心理状態を掴み、担任、学年団と連携しながら早期対応に努める。
	部活動の奨励	多くの生徒が部活動に所属し、活発に活動しているが、学業との両立に苦慮している生徒もいる。令和元年度は運動部全国・中国大会37競技、文化部全国大会7部門が出場した。	運動部全国・中国大会20競技以上、 文化部全国大会5部門以上出場	・本校部活動方針の枠組みの中で、効率的な部活動運営と生徒の主体的な取組を促進させる。 ・部活動と学業との両立ができるように、生徒個人個人の状況を把握しながら、部活動指導を行う。	・新型コロナウイルス感染症の影響で様々な大会が中止となり、特に3年生にとっては成果を発揮する機会が大幅に減ってしまったが、年間を通して、効率的な部活動運営と生徒の主体的な取り組みができた。運動部全国・中国大会7競技(含:ハンドボール中国大会中止)、文化部全国大会5部門が出場した。	B	・部活動が制約される中でも生徒のモチベーションを維持し、効果的な部活動実施に努める。
	社会人講師の活用	社会人講師活用事業や家庭科・公民科の授業等で実施している。	社会の一員となる意識が身につく。	・人権教育・主権者教育・キャリア教育等幅広く社会人講師を活用し、豊かな心の育成、望ましい人間関係の構築、社会に参画する態度の育成を図る。	・社会人講話や卒業生講話を実施することによりキャリア教育の充実や地域社会に参画する態度の育成を図ることができた。 ・人権教育講演会や、生徒向けに「ストレスマネジメント研修会」「コミュニケーショントレーニング」を実施し、教員からは学べないスキルや知識を吸収し視野を広げることができた。	B	・プロや専門家からより専門的な知識やトレンドを学ぶ機会を効果的に教育活動に盛り込む。
3 地域を知り、地域 に参画、寄与しようとする力の育成	地域資源を活用した教育 活動の推進	地域資源の活用と積極的な地域連携を推進するために、令和元年度に米子市と「ふるさと教育における連携に関する協定」を締結した。	みらいチャレンジ活動において、年間5回の連携を図り、地域理解が深まる。	・米子市と連携を密にし、円滑な探究活動を実施する。 ・課題テーマの提供、地域資源の紹介・接続、研究活動に係る指導助言、評価等について、米子市と連携し、探究活動の充実を図る。	・米子市と連携することにより、地域の課題や魅力について情報提供していただくことで、生徒の活動が充実したものとなっている。	A	・米子市や関係機関との連携を更に深め、研究内容の充実・発展を図る。
	学校の魅力・特色の情報 発信	文化部が協働し、文化部総合芸術祭「翠燦く」を開催し、地域に本校の魅力を発信している。(令和元年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止)	地域に情報を発信するとともに、地域を理解し、社会に貢献する態度が身につく。	・「翠燦く」と「みらいチャレンジ活動成果発表会」を同日に開催し、部活動の枠を超えたコラボレーションや学習成果など、学校の特色・魅力を発信する。企画・運営方法を早期に決定し、例年より早い時期に開催する。	・新型コロナウイルス感染防止の観点から「翠燦く」と「みらいチャレンジ活動成果発表会」を同日に開催することはできなかったが、みらいチャレンジ成果発表会は、規模を縮小して実施した。来賓、保護者、報道を含め32名の参加があり、一定の成果を上げている。 ・HPで学校教育活動の情報発信を行った。今後、学校行事のネット配信なども検討していきたい。	B	・社会環境に順応した発表方法を工夫するなど、学校情報の効果的な発信に努める。
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	部活動の指導時間や教材研究等で、時間外業務が増えている教員もあり、削減が急務である。	時間外業務時間月45時間、年間360時間以内勤務者の解消。	・「鳥取県立米子西高等学校部活動に係る方針」を遵守する。 ・行事、会議の精選によって業務の効率化を図る。	・時間外業務時間は個人差があり、基準となる時間を超える職員もあった。業務の見直しを図り、時間外業務の縮減に努める。	B	・業務改善ガイドラインに対する教職員一人ひとりの意識向上を図る。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】